

世田谷区立駒沢小学校第3回家庭教育学級講演会

AI時代に必要な「失敗力」の育て方 レジメ 2019/11/5

- 子どもたちが生きる未来

できるようになったこと

- 教育も変わる

1.

2.

3.

- 必要とされる力とは？

質問カワーク

- 「失敗力」を育てる親の関わり方

家庭数

第3回 家庭教育学級ご報告

世田谷区立駒沢小学校
PTA 会長 宮永 拓実
文化厚生委員長 早田 輝子

【AI時代を幸せに生き抜くために 何があってもくじけない！失敗力が育つ6つの栄養素】

去る11月5日、ランチルームにて第3回家庭教育学級を、教育ジャーナリストでマザークエスト代表の中曽根陽子氏を講師にお招きして開催し、約30名の方にご参加いただきました。当日は、世田谷区教育委員会 社会教育指導員の村田紀江先生によるご挨拶の後、お話を伺いました。



【子供の未来】

「2011年度米国小学校に入学した子どもたちの65%は大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」これは米国の教育学者 Cathy N Davidson 氏の有名な報告です。子どもたちがこれから生きていく世界は大きく変化しており、多くの仕事が AI によって担われ、人間は新たなものを創造したり、データを読み解いたり、心身に寄りそったりなど、人間でしかできない役割を果たすことになります。親が子供のためにレールを敷いたつもりでも、それ自体がなくなるかもしれない時代になっています。

【教育改革】

2020年の教育改革により、大学入試が大きく変わります。マークシート方式のセンター入試から、思考力、判断力、表現力を問う新型の大学入学共通テストになります。各大学でも個別選抜の改革があり、東大や京大でも推薦入試などで意欲のあり個性のある生徒を募集しています。これは、社会が求める人材が、従来の指示されたことを確実に実行できる人から、自ら考え実行できる人、新たな価値を創造できる人、チームで協働できる人に変化しているからです。

それに伴い、小中高の教育も変わります。一方的に教えるのではなく、生徒自身に考えさせるような主体的・対話的で深い学びである「アクティブラーニング」が導入されつつあります。また、AIで得られた知識が正しいかどうか検証したり、どう生かすかを考えたりする能力が必要です。

中学校入試も変化しており、思考力入試や一科目入試等、得意分野で受験できる学校が増えています。

【失敗力とは】

正解のない、変化の激しいこの時代が求めているのは「出る杭」のような人材です。しかし、日本人は自己肯定感が低く、うまくいくか分からないことへの意欲が低い傾向にあります。そのため、失敗を恐れずに挑戦し、それを糧にもできる「失敗力」を育てる事が重要です。

「失敗力」とは、経験したことのないような困難に出会っても、そこでくじけずに前に進む力です。「一度も失敗をしたことがない人は何も新しい事に挑戦したことがない人である。(松下幸之助)」 「それは失敗じゃなくて、その方法では上手くいかない事がわかったんだから成功なんだよ (トーマス・エジソン)」等の著名人の名言も残されています。失敗しても諦めずに成功するまでやり続ける人が成功に辿り着き新しいものを生み出す人となります。ラグビーの堀江選手、福岡選手も失敗力をもって挑戦し続けて、大舞台で大活躍されました。

【失敗力の育て方】

失敗力を育てるには、下図のとおり六つの栄養素が大切だと考えられます。



特に健康な体づくりが大切で、丈夫な体に賢い頭が育ち、自己肯定感の高い強い心も育まれます。さらに自分で考える力やコミュニケーション力、違いを理解した受容や感謝の心も大切です。子どもの脳を家に例えると、基礎となる一階(大脳辺縁系)部分をしっかりさせることが最優先で、それは早寝早起き朝ごはんを心がけた規則正しい生活により作られます。2階部分(大脳新皮質)は勉強、スポーツ、芸術などを身につける部分で、10歳以降に1,2階をつなぐ階段が作られ(前頭葉の発達)、社会性が生まれ、強い心も育っていきます。強い心は、大丈夫、何とかなる、やってみようと思う気持ちで、レジリエンス、胆力ともいわれます。いずれも1階がおろそかになると不安定で倒れやすくなります。早期教育が流行していますが、基礎があつてのことと忘れてはいけません。また、易怒やうつ等のトラブルが起きた場合も、土台の立て直しをすることで解決することが多くあります。

【自己肯定感を育てる】

自己肯定感の根幹は「親から愛されている、見てもらっている」という気持ちです。子供の成長を感じたことは本人に伝えましょう。つい出来ないことに目が行きがちですが、子供の特性はポジティブな言葉で表現するとよいでしょう。

【探究心・やってみようと思う気持ち】

能力は生まれつきと思う「コチコチマインドセット」か、努力すれば伸びると思う「しなやかマインドセット」かは、小さいころからの親の声掛けで決まります。子どもが期待するような結果が出せなかった時、「Why(どうして間違えたの?)」ではなく、「間違えちゃったんだね」と承認したうえで、「How(どうしたらよいと思う?)」と問いかけることで、未来に向かって解決策を考えるきっかけになります。親が先回りし過ぎず、小さな失敗をたくさんさせて、自立へのトレーニングをさせましょう。

本人のやりたい、好きだと思ふ気持ちがすべての原動力となるので、集中している時はなるべく妨げず見守ります。やる気サイクルが回りだすといろいろなことの成功につながります。もし、親が用意した習い事等にあまり意欲を見せない場合は、じっくり観察し、一緒にゴールをシェアできる工夫を。子どもは親が思う以上に親の期待に応えたいと思っています。押しつけではなく、自分で選択させるのがやる気の源になります。

子育ては未来を創る人材育成。これからは個々の特技を生かして社会を作る時代です。

アンケートより感想(抜粋)

- ・まずは認めてから、次に「どうしたらよいか？」と子どもに尋ねるといことを実践したい。
- ・押し付けるのではなく本人のやってみたい気持ちをくみとりたと思った。
- ・失敗からの学びが大切であることを子供に伝えていきたい。

文化厚生委員より

「令和時代を親子で健やかに」をテーマに活動してまいりました。子供をよく見て受容し、愛情をもって接すること、たくさんの情報に惑わされず、親としての軸を持つこと、親自身が学び続けることが大切だと思いました。1年間、貴重な学びの機会をありがとうございました。